

シリーズ 土地改良のあしあと 員弁地区土地改良区 (いなべ市)

地域の概要

当土地改良区は、三重県の北部に位置し、受益地はいなべ市員弁町、北勢町、員弁郡東員町の3地区にまたがっており、受益面積は約393ha、組合員は1,331名です。

平成10年に員弁大池、^{いなべおおいけ}笠田大溜、^{かさだおおだめ}奴女里溜、^{ぬめりだめ}畑新田溜、^{はたしんでんだめ}藤溜、^{ふじだめ}六把野井水、^{ろっばのゆすい}の6土地改良区が合併してできました。なかでも六把野井水、笠田大溜は歴史的にも古い施設を持ち管理しています。

六把野井水は、二級河川員弁川のいなべ市北勢町麻生田地区から取水し、同市員弁町を通り、員弁郡東員町までの総延長約12kmの井水であり、今から400年以上前の慶長6年(1601年)に着工し、寛永12年(1635年)に完成したとされています。



先人の知恵が伺える員弁大池
(このため池から各溜池に配水できる)



県の文化財に指定されている刻限日影石



コンクリート製の斜橋
(上部は三岐鉄道北勢線の軌道)

笠田大溜も江戸時代に桑名藩の命により築造されたもので、現在も築造完成を祝い桑名藩主松平越中守定綱が来遊したときの大名行列の再現である「弁天祭り」が9月に行われています。また、公平な水の配分を行うためにつくられた「刻限日影石」は県の文化財に指定されています。

員弁大池は先に記載した5つの溜池の中では一番高いところに造られており、それぞれの溜池の用水路に配水できるように作られています。

員弁地区土地改良区 理事長 二井 清

地区内の受益地のほとんどが県営ほ場整備事業により整備され、このほ場整備が終わった平成10年に6土地改良区が合併して員弁地区土地改良区が誕生しました。

この地域は古くから稲作を中心に発展してきましたが、名古屋、桑名への通勤圏であり、会社勤めの人が多く地域の農業者のほとんどが兼業農家であります。

役員構成は私を含め理事18名、監事5名の23名。専任事務局職員1名の24人体制で運営を行なっています。しかし、通常の管理は旧土地改良区ごとに任意の管理団体があり、6地区で66名の役員が溜池、井水の維持管理にあたっています。

この地域は、溜池を主に水源としていることから用水には大変厳しい土地柄ですが、ほ場整備により用水路等がコンクリート製に整備されたことや、溜池に三重用水の給水管が敷設され、補助用水としての給水が可能になったことなどから用水の状況は大幅に改善されました。

当土地改良区も他地区同様に水利施設の老朽化、農業従事者の高齢化による施設の維持管理が今後の課題となっております。

特に六把野井水については、一次改修後40年以上経過しており、延長12kmのいたるところで漏水等があることから、今後は国、県等の補助金を利用して改修を進めていこうと考えています。

また、農業従事者の高齢化、農作業の作業委託による農業者離れに伴い、維持管理が困難となってきている施設の清掃、草刈り等については、現在行われている農地・水・環境保全向上活動により地域ぐるみで維持管理を継続して行なっていく方法を模索していきたいと考えています。

食の安全・安心を脅かす事件が多く発生している今だからこそ日本の主食である米を守っていくために土地改良区役員、組合員一丸となって努力していきたいと考えております。